

# 令和2年度 学校評価自己評価表（中間）

学校教育目標 『夢に向かいチャレンジする津田小の子』 ～自ら考え行動する子・自他を大切にする子・元気にチャレンジする子～  
 ミッション 「夢に向かい諦めずに夢を育む児童の育成」をするために知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する  
 ビジョン 児童・教職員・保護者・地域が共に誇れる学校をめざす

廿日市市立津田小学校

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	担当	評価項目・指標・目標値	評価	結果（●）と考察（☆）	今後に向けて（○）	コメント	
確かな学力（知）	・基礎、基本の力を身に付け、自ら学び、考え、表現する「確かな学力」を育む	◎基礎的・基本的な知識・技能の定着	教務部	①児童に確かな学力をつけている。【市共通項目】廿日市学力定着状況調査（4年）の国、算、（理）の問題で60%以上正答した児童の割合 ②全学年算数の学期末テストの問題で、平均正答率70%以上の児童の割合	80%以上 70～79% 60～69% 60%未満	A B C D	●「全国学力・学習状況調査」調査結果…国語60点以上76.2% 40点未満4.8% 算数60点以上71.4% 40点未満0% ●算数学期末テスト結果（7月）…1年100%2年100%3年100%4年89%5年26%6年95% ☆全国学力・学習状況調査は目標を達成できた。しかし、文章で記述する問題に課題があった。	○全国学力・学習状況調査の正答率の低い問題と児童の解答を分析し、全教職員に周知する。また、家庭学習に国語や算数における活用問題を定期的に出すようにする。 ○主体的な学びのある授業にするために研修や研究授業を行い、学ぶ機会を継続していく。	・5年生の放課後教室の取組が楽しみである。 ・コロナの影響で学力の定着が大変だったと思う。 ・基礎学力は本当に大丈夫だろうか。少人数学級の平均点は当てにならないのでは？ ・少人数だが学力を伸ばす取組を進めてほしい。
		◎家庭学習に自ら取り組む児童の育成		・家庭学習ステップアップ週間を学期に1回実施し、家庭での過ごし方を意識させ、保護者にも協力を得る。 ・「自学のススメ」をもとに学習の仕方を指導し、自分で取り組む課題を週1回以上行わせる。 ・家庭学習の目標学習時間を1～4年生は「10分×学年+10分」、5・6年生は「60分」と設定し、児童に意識させて取り組ませる。 ・既習事項がランダムに盛り込まれた家庭学習を行わせる。	・児童が自ら進んで家庭学習に取り組む姿勢が身についている。 ・家庭学習の時間調査結果（各学年の設定目標時間のアンケート結果）	80%以上 70～79% 60～69% 60%未満			
豊かな心（徳）	・基本的生活習慣を身に付け、思いやりをもって行動できる「豊かな心」を育む	★自他の良さを認め合う、自己肯定感・自己有用感の育成	生徒指導部	・命を大切にし、自他を認めいじめを許さない、いじめをしない学校・学級集団になっている。 ・児童の肯定的評価（級友関係、自己存在感関係項目）	90%以上 80～89% 70～79% 70%未満	A B C D	●アンケート結果①児童「友達を大切にする」99%「学級のみならず認められる」81%「津田小学校はいじめのない学校」95% ●「いじめアンケート」による認知件数はなし。 ☆いじめの兆候は見られないが、自己肯定感の数値が少し低い。	自己肯定感、自己有用感を高めるために ○アセスの結果等を活用し、自己有用感が低い児童の実態をつかみ、重点的に取り組む。 ○「いいことみつけ」を学級、学校で充実させる。 ○生活指導に関し、できたこと、できていることへの肯定的評価に努める。	・5時間目の授業で道徳を参観した。一生懸命考えて発言する子どもたちの姿が見られてよかった。 ・津田小の子どもは優しい。これにたくましさ加わってほしい。 ・自己肯定感の数値を上げたい。
		○マナーや規範意識の育成		・「津田小ガイドブック～佐伯っ子ノート」を活用した共通指導。 ・学期末に学校の決まりが守れているか自分を振り返らせる。（廊下を走らない、履物をそろえるなどの決まりを守る。） ・「あいさつ運動」の取組を継続して行う。 ・毎日縦割り班掃除することで掃除の仕方がより徹底するようにする。高学年にリーダーとしての自覚をもたせる。 ・自問清掃が徹底するよう自問タイムを設け、確実に行わせる。	・「津田小ガイドブック」にあるマナーや規範意識を守ろうとしている。 ・児童の肯定的評価（「津田小ガイドブック」に書いてあることを守ろうとしている。） ・児童・保護者・教職員の肯定的評価（あいさつ・そうじ項目）	90%以上 80～89% 70～79% 70%未満			
健やかな体（体）	・健康への意識や体力を高め「健やかな体」を育む	◎活力ある生活の基盤となる体力や運動能力の育成	健康安全部	・体育の時間にハンドグリップを使った運動や跳躍力を伸ばす運動を取り入れたサーキットを継続的に取り入れる。 ・朝トレ（毎週金曜日）で跳躍力と握力を付ける運動に取り組む。 ・朝トレや掲示物および配布物を通して、いろいろな外遊びを紹介し、推奨する。	8/12以上 6/12 7/12 4/12 5/12 3/12以下	A B C D	●跳躍力と握力の体力測定を実施後、集計・評価する。→跳躍力11/12 握力8/12 ●課題のあった項目について再テスト週間を（2月上旬）を設定し、伸びを評価する。 ☆臨時休業中の運動の推奨、朝トレでのハンドグリップの活用により、跳躍力・握力ともに、半数以上が県平均を超える結果となった。	○握力について再テスト（2月上旬）を実施する。 ○朝トレでハンドグリップを使った活動を継続していく。 ○感染症対策や熱中症対策により制限されたが、可能な運動や遊びを紹介・推奨する。	・体力作りは重要である。遊びも含め具体的な方法を提示してやってほしい。 ・車通学が多いのは問題ではないでしょうか？ ・コロナの中、体力低下が今年は避けられないかもしれない。 ・休校中ハンドクリップやなわとびが気分転換になった。
		○健康に対する意識を高め、歯科保健の実践を通じた子どもの口腔環境の改善		・歯科受診の推奨（受診勧告を検診後と11月の2回配付） ・歯みがきカレンダーの取組 ・歯みがき指導（学級ごとに年1回実施、学級活動・自立の時間）	・自ら進んで体力づくりに取り組み、体力や運動能力が向上している。 ・体力づくりの取組の達成目標の到達度。跳躍力・握力における県平均以上の学級の割合（男女別）	75%以上 65～74% 55～64% 55%未満			
協働する教職員	・働き方改革に取り組むとともに、協働する職場作りをめざす。	○健康で生き生きとやりがいのある職場の創造	校内衛生委員会	①時間外勤務時間が月平均45時間を超えない教職員の割合 ②長時間勤務の縮減により教職員一人一人が健康で生き生きとやりがいを持って勤務している。	①80%以上 ②90%以上 60～79% 40～59% 40%未満	A B C D	●毎月始めに入退校時刻記録で時間外勤務の割合を確認する。45時間以上④3/15⑤0⑥5/15⑦2/15⑧0⑨0 ●教職員アンケート「生き生きとやりがいをもって勤務する」100%●教職員アンケート「『チーム津田』として一丸となって教育活動に取り組む」100% ☆80時間を超えた教職員はいなかった。	○定時退校日を水曜日の6時に設定し、時間を意識して働けるようにしていく。 ○教職員が「チーム津田」として取組ができていくと意識した教職員は100%であり、大変喜ばしいことである。今後はこの働いている意義を説明することで個々の教職員のかかわり方に充実感を持たせていきたい。	・どの先生も無理せず元気に頑張ってください。（×3） ・応援しています。 ・「チーム津田」すばらしいです。 ・子供に寄り添った指導をお願いします。 ・子ども達が実のある学校生活が送れるようにお願いします。

◎重点項目 ★小中学校共通項目